

後期戦略計画（素案）に対する「市民意見募集」の結果

■ 概要

募集期間	2025年10月1日（水）～2025年10月31日（金）	
対象者	市内在住、在勤在学、市内活動団体	
回答者数	13名 (30代1名、40代1名、50代3名、60代3名、70代以上5名)	
回答方法	回答フォーム、メール、FAX、郵送、持参、聞き取り	
意見数	88件	
意見内訳	後期戦略計画における重点事項（まちづくり戦略）	5件
	柱1 「豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める」	10件
	柱2 「笑顔あふれる共生社会（インクルーシブ社会）をつくる」	15件
	柱3 「こども・若者の育ちをまちのみんなで支える」	23件
	柱4 「安全・安心を支える生活基盤を強化する」	11件
	柱5 「まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す」	6件
	効率的・効果的な行政運営	6件
	その他	12件

■ 後期戦略計画における重点事項（まちづくり戦略）

○ 「全体」

- 明石がどこを向いて行くのか示してほしい。市議会ともしっかりと連携して、成果を出してほしい。
- 市としてやるべきと考えることは、取り組んでみたらよい。やってみて、違うとなれば、すぐ止めて良い。
- 戦略計画においては、市政への市民参画によるまちづくりについて記載されていないのではないか。
- 戦略計画の中には、施策等の課題についての記載がないのではないか。先ず、課題を明記して、課題の解決のための理念や方向性を示し、その後に、目標を掲げるものである。
- 市民意識調査は、明石市の課題を把握することを第一の目的として実施されるべきで、戦略計画の中には、市民意識調査で把握された成果しか記載されていないのではないか。

■ 柱1－1 【脱炭素社会の実現】

○ 「再生可能エネルギーの利用促進」

- 太陽光パネルの設置を推進する場合、有害物質が使われていないパネルが使われるのか。寿命を迎えたパネルの大量廃棄について、不適切な処理は環境汚染につながる可能性があると世間では言われているので、自然と共に存できる範囲の適切な量、

箇所に限定した方が良いと考える。

■ 柱 1－2 【循環型社会の実現】

○ 「持続可能なごみ処理体制の確立」

- ・ごみ処理施設は、他市では連携して整備していると聞く。今回は連携できなかつたが、今後については検討が必要ではないか。
- ・「湿式と乾式メタンガス化（バイオマス化）施設と廃棄物焼却施設とを併設したコンバインド（ハイブリッド）方式の新ごみ処理施設の整備」へと変更してはどうか。
- ・生ごみ、紙ごみなどから発生したバイオガスを都市ガスの原料（メタンガス）として供給してはどうか。

○ 「ごみ減量施策の推進」

- ・「単純指定ごみ袋4種類（燃えるごみ、燃えないごみ、缶ビンペットボトル、容器包装プラスチック）の導入、ならびに有料指定ごみ袋も検討」へ変更したらどうか。

○ 「循環型社会の推進」

- ・「3Rから、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用する循環経済（サーキュラーエコノミー）へ移行推進」を追加する方が良い。
- ・「プラスチックの分別収集と商品化」に取り組んではどうか。（海洋プラスチックが地球規模の問題とされ、2022年4月に「プラスチック資源循環促進法」が施行された。ごみ処理施設の交付金の支給条件とされている。植物性のバイオプラスチックや海洋生分解性バイオプラスチックの導入が進みつつある。）

■ 柱 1－3 【自然環境の保全と活用】

○ 「みどりの保全、創出と活用」

- ・大久保北エリアの里山や、今ある自然や長年育ててきた、石ヶ谷公園の梅園を守って、育んで欲しい。
- ・大久保北部の里山やため池の保全と利活用とあるが、利活用とは具体的にどのような計画があるのか。これから計画していくということか。
- ・江井島では、ボールで遊べる施設がない。消防署の裏の公園もボールが使えず、サッカーやソフトボールのできる所がない。

■ 柱 2－1 【支え合う地域づくり】

○ 「小学校区単位の協働のまちづくりの推進」

- ・自治会で、LINEをつかった回覧の電子化を行っているが、すごく良いと感じている。一度辞めた人が再度自治会に入ってくれた例も出ている。他の自治会でも広げようと思ったら、市の支援が必要である。デジタルに詳しい職員が、継続的に自治会に出向き説明会を開催するなど、フォローが必要と考える。
- ・市民意識調査での地域活動への参加は、2024年の数値において、深刻な状況である。よく参加と時々参加を合わせて、19%である。前三回のこの数値は約30%前後であり、

行政は、環境、防犯及び災害の側面において、行政と市民との協働を期待しているが、市民意識調査で把握された調査結果では、その期待がかなえられない傾向になっている。

○「共創・共同のパートナーザクリに向けた市民活動団体への支援」

- ・市内の各団体が、プロの助言・指導を受けながら、自らの力で活動をパワーアップさせることができ、SDGs推進の大きな力となるはずなので、各プロからの助言・指導がほしい。(①IT活用のノウハウ、②会員との意思疎通の方法とコツ、③役員を束ね、各役員の力を引き出すコツ、④セミナー講師の紹介、⑤他団体とのつながり)

○「地域福祉を支える担い手の確保・育成に向けた取組の推進」

- ・30年以上民生委員をしており、赤ちゃん訪問で訪ねていたこどもが、大きくなり挨拶をしてもらえることは、すごくうれしい。
- ・今は、個人情報に厳しく、地域活動について色々難しいと感じる。
- ・民生委員もなり手がなく、次の民生委員がなかなか決まりづらい状況にあるので、担い手確保は重要である。
- ・市民に、困っている人がいたら助けるのは当たり前であるという情操教育をやっていく必要がある。まずはこどもから進めて欲しい。

■ 柱2－2【自分らしくいくことができる社会づくり】

○「ジェンダー平等の推進」

- ・みんなの制服ができて、選択肢が増えたことは良いと思うが、女子生徒がズボンをはくと、イコール異なるジェンダーなのではないかと思われる、といった心配を持っている人がいる。ズボンが好きとか、寒いからとか自由に選べられたらよいが、ジェンダー平等への理解が深まるには時間がかかると感じている。

■ 柱2－3【健康・長寿の推進】

○「福祉施設の整備と人材育成」

- ・認知症の入所者について、市の方は、面談を行ったり、支援をしてはくれるが、行くところがなければ、引き続き施設で受け入れるしかなく、課題だと感じている。市も支援をして欲しい。
- ・人手不足について、看護師は確保できるが、介護士が定着せず、足りていない。
- ・外国人の雇用について、今はいないが、今の制度ができる前に介護助手として働いてもらっていたことがある。入所者の評判は良かったが、書類の読み書きなどに課題があった。
- ・子育て支援の充実で、全国でも知られる明石市へと生まれ変わった。次は「老人介護」の問題である。貧しくても安心して老後を迎える施設を多数準備しなければならない。あるいは、施設でなくても、訪問介護や訪問医療を充実させ、貧しくても安心して老後を迎える明石市に変身してほしいと強く願う。
- ・特養を希望しても数年待ちで、お金持ちでなければなかなか希望するような民間の

老人ホームには入れない。私たちの世代（昭和40年から43年生まれ）は人口が多いため、特養は取り合いになると思う。

- ・巨大災害の危険性が高い時代なので、介護施設の安全確保が問題だと考える。特養や老健といった施設は、災害時、逃げるのが困難な場所（僻地。道が狭い。坂が急。川や池のそばで浸水が心配など）にあるので入所者だけでなく職員の安全も含めて心配である。
- ・高丘の団地や周辺の老人施設が、老朽化しているので、高丘の中央部に新たに施設を建設してはどうか。施設で働くスタッフは、団地を寮とすればよい。高丘は、高台で道路が広く、校庭がありヘリが着陸できるため災害にも強い。働き盛りの息子娘は、近くのオーナーさんなどと暮らし、やがて自分たちも年をとったら、安心して暮らせる高丘へ移りたいと思えるような街に、高丘が生まれ変わってほしい。

■ 柱3－1【安心してこどもを産み、子育てができる環境の整備】

○「子育て環境」

- ・市民意識調査では、子育て環境は、良くなった分野としての数値が上昇することによって、今後強く推進する分野としての数値が下降している。この事実は、子育て環境の施策の成果を示している。問題は今後であり、戦略計画において、子育て環境のさらなる拡充を目指すのか、それとも、これまでの成果を維持するのかという選択の問題ではないか。

■ 柱3－2【一人ひとりに応じた質の高い教育の推進】

○「学びの機会の保証」

- ・校内フリースペースは学校に通うことができる子への支援で、学校にそもそも行けない子に対する支援を充実してほしい。第三の居場所が明石の東部と西部にあり、中部はないので、中部にもあればと思う。自分で行って帰ってこられるように、各中学校区にひとつあればと思う。子どもの自立を支援するためにも、1人で行って帰れることが大事である。空き家も問題となっているので、空き家を有効活用できないか。
- ・学校は、行きたくないなら行かなくてもよいと思う。ただ、勉強だけはしたほうが良いのでその支援は必要と考えている。

○「学校施設及び学習環境の整備」

- ・学校の先生も忙しいので、学校に資格がない人でいいと思うので、臨時のサポートを入れられたら良いのではないか。
- ・江井島小は、校舎が古くトイレも古いため、トイレ環境をもう少し良くしてもらいたい。お金もかかることなので、難しいところもあると思うが、現状では子どもがトイレに行きにくくなっている。また、外壁も痛み、鉄筋がでてしまっているところがあるので、整備をお願いしたい。
- ・貴崎小学校では、チーム担任制をとっていると聞いている。全校でやればいいのに、

実施しないのか。先生によっては、他の先生に自分のクラスに入ってきてほしくないと思っている先生もいるのかもしれないが、色々な先生が関わることで、1人1人の先生の負担は軽くなるのではないか。

○「学校給食の無償化」

- ・給食無償化は保護者の中でも、賛否がある。タダになるならうれしいという声もあるが、無償化するよりは、もっと良いものを食べさせてほしいという声もある。材料費が値上がりしているなら、ご飯だけ持参してもよいと思う。
- ・給食無償化は、親のための施策だと思う。そのお金を子どものために使ってほしい。

○「明石らしい中学校部活動の展開」

- ・受け皿としてS C 2 1でと考えているのかもしれないが、地域で部活動を受け持つのは難しい。部活動の会議にコミュニティ・生涯学習課が入っていないのも気になっている。
- ・部活動が学校でできないのであれば、辞めてしまってもいいのではないか。学校の先生が、部活動がなくなると子どもが悪い方向に行ってしまうと言っていたが、部活があっても悪い方向に行く子は行くのではないか。

■ 柱3－3【子ども・若者の状況に応じた適切な支援】

○「子どもの見守り」

- ・子ども会がなくなったのにびっくりしている。最近の人は全部整えられた所に参加はするが、自分が面倒を見る側には行かない。手伝ってと言うと引いてしまう。
- ・P T Aもつぶれていっていると聞くし、自治会にも入らない人が増えている。若い人は活動を嫌がる。
- ・子どもの見守りを、年寄りにと言われるが、参加する人は限られている。
- ・市には、各課でバラバラではなく、総合的に支援をしてもらいたい。

○「子どもの夢応援プロジェクトの推進」

- ・家庭状況の把握と精査は必要かもしれないが、未来を担う子供たちに高校進学へのチャンスは申込者全員に与えられないか。歳出の優先順位の付け方で可能だと考える。KPIとしては、財政難の家庭を無くしていくということで、応募者数が200人以内になるようにということを目標にできないか。

○「様々な事情のある子どもへの支援」

- ・特別な支援を必要とする子どもがすごく増えている。また、判断のつきにくい子も増えてきているが、まだ子どもが困っていても、親や祖父母が特別支援を受けることをいやがる例もあると聞くので、もっとオープンになればよいと思う。
- ・明石の子は明石で特別支援学校に通えたらと思う。明石公園の図書館跡地に特別支援学校が建てばいいなと話していたこともあった。
- ・どこからがヤングケアラーなのか、難しいところがあると感じている。ヤングケアラーを心配しても保護者に言いにくく、口を出すと余計に悪い状況になるのではないかと心配してしまう。同様に虐待についても、どこまで踏み込んでいいものなの

か、地域の人間としては難しい。

- ・こども食堂に来る子はいつも一緒に、実態は分からぬが、特に困っているなさそうに見える。本当に困っている子が来ていないように思っていて、親が申し込むので、親が行かせないこともあるのではないかと感じている。

○「こども・若者の居場所づくりの推進」

- ・江井島コミセンでは、放課後場所を開放し、遊びにきても良いとしている。30人ぐらい来ているが、ケガなどの責任問題もあるので、難しいところがある。

○「こどもの状況に応じた適切な支援のKPI」

- ・子ども食堂実施回数のKPI 参加者数もカウントしてはどうか。そもそも子ども食堂が必要な社会が問題という考え方もある中で明石市ではどのような位置付けを考えているのか。貧困家庭の子供たちが行く場所という世間の認識はあまり変わっていないので、遠慮して利用しない人もいる。逆に放課後の居場所、行き場所の一つ、保護者としては1食分用意する時間を有効活用できる、または休憩できる時間とメリットを感じている人もいる。これまで子ども食堂を増やすことが目的であったかと思うが、将来的には子ども食堂の在り方について考えていくべきだと思う。そういうことでKPIとして持つべき数字、目標も変わってくるのではないか。

○「若者の流出防止」

- ・若者の流出を防ぐことが大事である。大学で出て行っても明石に帰ってきてもらえたらいよい。

○「市民意識調査」

- ・市民意識調査では、子育て環境は、2019年及び2024年においては、上位5の分野には入っていない。ところが、戦略計画では、展開の柱3として、こども・若者の育ちをまちのみんなで支えるとしています。したがって、市民の意識と行政の計画が一致していないのではないか。

■ 柱4－1【防災・感染症対策の強化】

○「地域防災力・災害対応力の向上」

- ・明石市役所は、海辺で埋立地であるため、津波が来たらデジタル情報は、全てダメになるので、高丘や石ヶ谷等高台にバックアップコンピューターが必要だと思う。第二市役所を高台に設置し、いざというときそこを拠点にすることが、大災害に備えるため必要だと思う。

■ 柱4－2【日常の安全・安心の確保】

○「地域医療の充実」

- ・前期戦略計画と比べて、医療に関する取組が減っているように感じる。
- ・高齢化に伴い、高齢者が増えればその分負担も大きくなるので、難しいところもあると思うが、医療の充実にしっかり取り組んでほしい。

■ 柱4－3【誰もが利用しやすく安全で強靭な都市基盤の整備】

○「公共交通ネットワークの維持・充実」

- ・西明石から医療センターに行こうとしたら、JRに乗り、たこバスに乗っていく。西明石から1本のバスで行けるようにして欲しい。
- ・たこバスは、縦方向には走らせられるが、他線への影響があるから、横方向には走らせられないと言った。だが他のバスもどんどん本数を減らしており、不便である。

○「安全で利便性の高い幹線道路・橋梁等の整備」

- ・西明石では狭い道が多く、大きな消防車が入れない。
- ・西明石に新しく800世帯のマンションができるが、道がその人数に伴っていないようを感じる。新たに大規模に開発される場合は、持ち主に一定負担してもらえばよいのではないか。
- ・道路のインフラについては、神戸との連携がうまくいっていると聞いているので、しっかりと取り組んでもらいたい。

○「スマートインターチェンジ」

- ・明石サービスエリアスマートインターチェンジ設置は要らない。上下水道の安全整備や、古くなった道や、歩道が無くて危ない道など、先に安全のためにできることができることがたくさんあると思う。
- ・スマートICについて、明石市でも今後の人口減少社会を迎えるにあたり費用対効果の観点から今の時代大型公共開発は必要なのか。渋滞対策であれば交差点改良工事や、水道管の問題など、今るべきものから身近な暮らしにフィットしたまちづくりが必要と考える。
- ・人口が減ると所持する車の台数も減る、また玉津と大久保という近距離間で本当にここにスマートICが必要なのか。誰が必要としているのかわからない。あるいはインターチェンジができることと同時にその周辺が開発され企業や施設の誘致があるのか。メリットを明確に説明していただき住民投票を行なってほしい。ここにかける費用で今困っている若者や高齢者、障害者の支援が手厚くできることもあるのではないかと思う。

■ 柱5－1【地域産業の振興】

○「中小企業の振興」

- ・企業では新規採用は厳しく、大手企業に行ってしまうため人手不足である。
- ・商工会議所に中小企業相談事業を行った人が良かったと言っていた。市と商工会議所で事業が重ならないようにやっていってほしい。
- ・事業者が国の補助金などを受けられるように支援やマッチングを行ってほしい。

■ 柱5－2【豊かな心を育む文化・芸術の推進】

○「本のまちビジョンに基づく取組の推進」

- ・市民意識調査において、本のまち推進の順位は、2020年においては31項目中31位、2024年においては31項目中29位である。ところが、戦略計画の施策展開の柱5の中で、主な施策として、本のまちビジョンに基づく取組の推進を記載しているので、市民の意識と行政の計画とは乖離しているのではないか。

■ 柱5－3【まちの魅力を生かした賑わいの創出】

○「まちの魅力を生み出す地域拠点の整備」

- ・今あるべきものを有効活用して都市の魅力を向上させていくことが今後のまちづくりの根幹になるのではないか。多世代間の交流を持つことで新たな出会いにより人間としての活路を見出せ、新しいアイデアがまちづくりに活かせる。そういう観点からの地域発展に期待する明石を目指したい。

○「海岸線を活用した取組の推進」

- ・明石の海岸といえば、大蔵海岸ばかり注目されているが、林崎から江井ヶ島までの8Kmに渡るサイクリングコースの活用に期待している。“しまなみ海道”的にサイクリングを楽しむ人の聖地の一つとしてアピールできると良いと思う。またランニングやウォーキングの練習場所として最適なので5Kmや10Kmマラソンなどイベントをされてはどうかと思う。

■ 効率的・効果的な行政運営【市民と共にまちを創る】

○「対話と共創」

- ・様々な対話の場を設けていただきいて感謝している。しかしながらそういう場があることをまだ知らない市民が多いので、実施したかどうかだけでなく、(選挙同様)どれだけの人が参加したのかということも数値で見ていただきたい。また実施の際には、ぜひともまだ立ち止まれる、後戻りできる、計画の見直しができる段階で行なってほしい。
- ・ワークショップも明石市市民参画条例に規定する市民参画手法の一つである。しかし、現在実施されているワークショップの実質は、参加者の意見を表明する場ではないか。

○「ＳＤＧｓの更なる推進」

- ・以前、評議員をしている高校で、何かSDGsの取組をしているかたずねたら、先生がSDGsについて知らなかった。今は周知が進んでいるとは思うが、しっかりと周知に取り組んでほしい。

■ 効率的・効果的な行政運営【持続可能で自立した行政経営を推進する】

○「自治体DXの更なる推進」

- ・DXについては、高齢者にどのように馴染ませるかが難しいのではないか。

○「健全財政の推進」

- ・図2「今後の財政見込み」について、R11, 12, 14の歳出費の昨年比が歳入費の昨年

比を上回っている。主に何に使われる計画なのか知りたい。R13 以降基金の額が 100 億を切る見込みとのこと、根拠がわからないのでなんとも言えないが、歳入を増やすだけでなく、歳出を抑えることも必要ではないか。

■ その他

○ 「市民意識調査」

- ・戦略計画の 2030 年 100.0% の数値は根拠に基づいた数値ではなく、単なる願望の数値ではないか。根拠を必要とする計画に載せる数値ではない。
- ・転出者の中には何らかの「明石は住みにくい」との理由で転出した人も含まれるはずです。重要な情報として、転出した理由を調査する必要がある。
- ・2015 年と 2024 年を比較すると 15 歳以上 25 歳未満の人口は減少しており、一方、住み続けたいと思う人の割合は増加している。この割合の増加の最大の要因は、人口の高齢化である。住み続けたいとの思いの中には、年齢的に、転出は無理という要素が含まれている。そのような分析を省略して、住み続けたいと思う人の割合が増加していると早計に判断するのは誤りではないか。
- ・市民にとって、高齢者福祉、地域医療、勤労者支援、交通体系は未解決の課題である。戦略計画においては、これらの施策を最重施策に位置付けて、各施策展開の柱の中の展開の方向として明記すべきである。
- ・市外から市内に転居してきた理由として、上位 2 つは、交通と買物の利便性であり、子育て施策の充実ではないと考える。あたかも、子育て支援施策の充実によって市外からの転入者が増えたと説明してきたのではないか。
- ・子育て施策の充実が、2019 年の 5 位 (18.2%) から、2024 年の 3 位 (26.3%) に上昇しているが、この施策は、明石市の財政にとって、将来にわたる財源の負担を伴うので、一般財源の使途として、本当に適切な施策であったのか検証する必要があるのではないか。
- ・転入者が増えた主な要因は本当に子育て施策の充実であったのか、子育て施策の充実によって転入者が増加した要因を明らかにせずに、審議会手続が進められているのではないか。
- ・出生数について、2017 年から 2024 年の期間中の対前年度増減数の合計は、△168 人であり、行政が繰り返して説明してきたように出生数は増加していない。子ども施策の充実だけで合計特殊出世率が上昇したという根拠は不明ではないか。
- ・戦略計画では、2025 年以降も明石市の合計特殊出生率が上昇することになっている。そのためには、子どもを持った世帯の転入数が増加し続ける必要があるが、明石市以外の市町村の合計特殊出生率は低下し続けるため、新たな転入世帯の子どもの数は減少する。その結果、明石市推計値は成立しないのではないか。日本の人口が大きく減少する状況において、2040 年まで明石市の転入世帯が増加するという前提が間違っていると考える。

○ 「施設整備における市の考え方について」

- ・スマート IC について、設置効果である「利便性」について住民の声とギャップがあると考える。また「経済性」については根拠が全く見えない。
- ・旧市立図書館跡地における施設の整備について、8月2日のワークショップでレイアウト案が出てきた。今後の跡地利用に向けた市の決定プロセスが知りたい。
- ・旧市立図書館跡地における施設の整備について、既にアワーズホール、子午線ホール等があり、新たなホール（特に音楽ホール）は不要と考える。立地的にもあり方が検討されている文化博物館の二の舞になると考える。市が推進する「公共施設配置適正化計画」にも矛盾しているのではないか。新たな多目的・音楽ホールを建設する意義、必要性について知りたい。